你　　好

39 号

中国語を学ぶ会

2019 年 4 月	**第 39 号発行**
連絡先	渡邉 090-8588-2430

『中国語を学ぶ会』新たなチャレンジ

会長　渡邉　敏行

中国人と話がしたい

東京オリンピックの開会式まで 3 月 12 日で残り 500 日
東京都内や観光地は中国人であふれています。

私は中国語を何年勉強しているのだろう？
中国人の話やドラマを聞いていると、何となくこんなことを言っているのかな？？？
文章を読んでいても所々単語がわからないこともあるが何となく読める。
ああ～　私は中国語がわかるんだ！

本当にそうかな？
中国人を目の前にすると自分の言いたいことが相手に伝えられるだろうか？？？
中国大陸の各地を旅して歩いてみたが、
いや～　なかなか言葉が出てこない。
你好　　你好吗？　　再见
ああ話せた！　　寂しいかぎりだ！　　何とかしよう！

役員は次の通りです。

会役職	氏名	クラス
会長	渡邉　敏行	火曜
副会長	小野寺　登	火曜
会計	薄井　則久	火曜
会計監査	鳥沢　光代	木曜
火曜役員	薄井　則久	火曜
火曜役員（会計）	清田　美智子	火曜
水曜役員	蜂屋　和男	水曜
水曜役員（会計）	泉　初代	水曜
木曜役員	石崎　正一	木曜
木曜役員（会計）	中島　良光	木曜
ホームページ担当	渡邉　敏行	

「中国語を学ぶ会」ホームページアドレス：検索：中国語を学ぶ会平塚市

http://www.manabukai.sakura.ne.jp/***请大家上网查询***

会員のおはなし

台湾一周鉄道の旅　　星期二　薄井則久

2018年度の「中国語を学ぶ会」研修旅行に参加した。
学ぶ会の研修旅行は、2014年以来の4年ぶりとあって心待ちしていた企画である。
今回の研修旅行は「台湾一周鉄道の旅」ということで、台北松山駅から時計回りに、松山駅→花蓮→（花蓮～台東間の鉄道は山線を走行する為、この区間はマイクロバスで移動となった）→台東→左営→台中→台北と三泊四日の日程で、学ぶ会の同学男性5名、女性 3 名の8名での旅である。

第一日目（10 月 19 日）

羽田発 10:50～台北松山空港着 13:30。
松山空港では4年前の「台湾最南端鵝鑾鼻の旅」でお世話になったガイドの簡さんが出迎えてくれた。4年ぶりの再会であったが、84歳とは思えないお元気な姿を見て、今回も愉しいガイドをして頂けると期待がふくらむ。
松山空港から松山駅までバス移動。松山駅は日本の愛媛県・JR 松山駅と同じ名前であることから姉妹駅となり、日本の松山駅から寄贈されたという「祭り神輿」がコンコースに展示されていた。
駅のホームにある列車到着表示板に「15:00 約晩 13 分」の表示、これって約 13 分遅れると言うこと？親切と言えば親切だが、鉄道が遅れるのは日常的茶飯事なのかなと思った。
○宜蘭線：松山駅発 15:16～（自強号 432）～花蓮着 17:23。
順調な旅の滑り出しであったが、この二日後（10/21）に同じ路線、同じ位の時間帯にあの惨事（宜蘭線新馬駅・蘇澳駅間で発生したプユマ号脱線事故）が起こるとはつゆ知らずであった。
到着した花蓮駅は改装中。花蓮駅構内に「祝您旅途愉快」の看板が下がっていた。つい最近、火曜クラスの授業で習ったフレーズである。意味が分かるということは嬉しい！
ホテルまでマイクロバスで行くが、バックドアーが閉まらず運転手が何度も（7,8 回あったかな）降りては閉め、降りては閉めを繰り返し、最後は油を注したら直ったようだ。
暗くなった左右の道路脇には、煌々と照らされているいくつもの小さな店がある。
簡さんが「檳榔」を売っているお店だと教えてくれた。檳榔は興奮・酩酊感が得られるので運転手が眠気覚ましに噛むらしいが、酔っ払い運転にはならないのかな？と案じる。
花蓮一のホテルである！と、簡さんが自慢する中信大飯店にチェックイン。

ホテルの夕食では、料理に出された魚の名前を若い女性従業員に何度も尋ねては、調理場に走らせては困らせた日本の小父さん、小母さんでした。最後には料理長が出て来るんじゃないかと気が気でなかった。

第二日目（10 月 20 日）
今日は、今回の旅の絶景ポイント「太魯閣渓谷」の観光である。
ホテルでマイクロを待っていると、ウイデングドレスを着た花嫁さんが出て来た。
学ぶ会の研修旅行では、何度も花嫁さんに遭遇する。厦門に行った時は結婚披露宴の席まで入って新郎・新婦の写真を撮ったことや、平遥では朝早い結婚式に遭遇した思い出がある。
やって来たバスは大型バスで、一人で横一列4席座っても余裕がある。そう言えば昨夜、簡さんがドアーの閉まらないマイクロに文句を言いつつ、明日は立派なバスを手配すると言っていたが、本当に立派な大型バス（40 人乗り？）が来たのには驚く。
ホテルを出て太魯閣へ向かう沿道には、紅葉しているのか？と思われる上部が紅褐色に染まっている街路樹が延々と続く。この樹は欒樹（luan・shu）といって台湾原生で花から苞に変るごとに、緑色→黄色→紅紫色→紅褐色と季節ごとに異なる色になるので「四色樹」とも呼ばれる木で、10月の台湾の秋を彩っていました。

バスは台湾を代表する景勝地の太魯閣渓谷に到着。この渓谷は、大理石で構成された目もくらむような険しい大峡谷が延々と20kmも続いている天下の絶景で、国際的に有名な観光地である。
バスから降りて落石対策用のヘルメットをかぶり、大理石の大断崖をえぐって作られた道路を約30分かけて歩き、山容水態の大自然の景観をゆっくり鑑賞した。
渓谷散策後、花崗岩を加工している工場を見て昼食。午後は台東に向かって太平洋に面した海岸線をドライブ、最後に山線に入り「池上駅」で名物弁当を購入する。という計画であったが、ガイドの簡さんがそれより面白いコースがあると言ってコース変更。
変更コースは花蓮県を通る「北回帰線標塔」、石器時代の住居跡が発掘され、台湾考古学最大の発見となった遺跡「八仙洞」、水が下流から上流に向かって流れる奇観「水往上流」を観光するコースになった。
八仙洞は海水に浸食されて生まれた洞窟であるが、海辺から遠く離れた場所にあるのに潮騒の音が聞こえるパワースポット。次に訪れた台東県東河郷にある「水往上流」は山路に添った小さな水路があり、その中の水は、なんと！地球の引力に逆らって低い処から高い処へ向って流れて行くのです。

この現象は、見る角度の違いにより生じる目の錯覚によるものなのらしいが、現地では勿論のこと、帰国してからネットでその現象を調べたが判らず、いまもって頭の中はモヤモヤしている。（考えると眠れなくなってきます）
台東でのホテルは、新しい台東駅から徒歩20分の所だが駅前は開発中らしく何も無い場所で、ホテルの前の草地では、放牧された数頭の牛が牧歌的風景の中で餌を食べていた。
夕食は美味しい台湾料理だったが、紹興酒を頼んだら在庫がないと言われてしまった。台湾の飲み物と言えば紹興酒と思っていたが、台湾のホテルでも紹興酒が無いということがあるんですね。

第三日目（10 月 21 日）
新しい台東駅前には、赤い花苞の「欒樹」や、濃いピンク色の花をつけた「美人樹」（美人樹という名前は帰国後に調べて分かった）が咲いていて南国情緒豊かだ。美人樹の落花した鮮やかな花を手に取って同行の鳥澤さんはご満悦の様子でした。
○南廻線～屏東線：台東駅発 8:53～（自強号 306）～左營着 12:05。
台東から枋寮を結んでいる南廻線は山あり、谷あり、海ありと変化に富む路線で車窓から見える台湾の田園風景を楽しむ約 3 時間の鉄道旅。通過する駅名は知本、大麻里、大武・・と、駅名を見ていると日本の鉄道旅をしているような錯覚を覚える。
車窓からは、釈迦頭やマンゴーが植えられている畑が延々と続くのが眺められる。大武駅近くでは簡さんが左側に見える大海原を指差して、4年前に訪れたバシー海峡だと教えてくれた。
○台湾高速鉄路：左營発 12:55～台湾新幹線～台中着 13:37
左營駅で新幹線の発車時間まで時間があるので、駅弁売り場を覗く。鉄道の旅はやはり車内で食べる駅弁の味は格別と、阿里山弁當や五色蔬駅弁當などの看板が下がっている臺鐵便當本舗で購入。どの弁当もご飯の上にお肉（主菜）がポンと置かれ、炒めた野菜と台湾風煮玉子が入っていて、味が濃さそうだな？と思ったが、食べてみると高菜漬けらしき混ぜご飯とお肉の味がマッチしていてとても美味しい。
新幹線は乗車時間42分の短い旅で、弁当を食べているうちに台中駅に着いてしまった。
台中では、日本語を習っている「横浜你好国際演講会」という団体の日本語演説会を聴き、終了後演説会の有志と我ら学ぶ会とで交流会が開く予定になっている。
会場に到着した時には、すでに演説会は終わっていたが、講評時間の前に「中国語を学ぶ会」を紹介する時間を頂き、久保田さんと渡邊会長がスライドを使って当会の活動を紹介した。
演説は聞けなかったが、講評と受賞者の喜びの声を流暢な日本語で話されているのを聞いて、

旧台中駅舎

日本語力のレベルの高さに驚く！交流会は場所を移して「大和屋」という台湾式？日本料理店で開き、学ぶ会の仲間全員が日本語混じりの中国語で自己紹介をした。
私は「你们好！很高兴认识大家。我姓薄井，叫薄井则久。我来自神奈川县，这次是第三次来台湾旅行･･･我的爱好是打太极拳和茶道，我正在努力学汉语，还说不好。请多多关照！」が精いっぱいの中国語挨拶。挨拶が終わったらどうして太極拳を始められたのか等、問いかけられたが中国語での返答は出来ず全て日本語になってしまった。
食事の後はカラオケ大会になりデユットで歌ったり、踊ったりと大いに盛り上がり、日本・台湾の親睦をとても深めた交流会になった。お店からの帰り道は、交流会に参加された演説会の方の奥さんが、ご主人を迎えに来た車に便乗させてもらいホテルまで送って頂いた。谢谢！

第四日目（10 月 22日）

朝食前に散歩に出かける。ホテル前の公園では数名の年配の方が体操をしていた。
中国だと太極拳やダンスをやっているが台湾はそれほどやっていない。もし太極拳をしていたら飛び入り参加をしてみたかった。
チェックアウト後、3 台のタクシーに分乗し私たちの乗ったタクシーが先頭で台中駅に向かったが、行先を新幹線の台中駅と運転手に指示してしまった。
後続車の簡さんや久保田さんは、私たちがどこに行こうとしているのか心配だったようだ。途中で気が付いたから良かったが、台北行の列車に乗るのは台鉄台中駅で、新幹線の台中駅は8kmも離れていると聞いて驚いた。時間に遅れることも無く台鉄台中駅に着いた。
花蓮駅、台東駅、そして台中駅とどの駅も新しく建て替えられて、効率的になったのだろうが何か旅情が無くなってしまったと感じていたら、なんと新台中駅のコンコースを下りた場所に旧台中駅舎がありました。
日本統治時代の 1905年に開業したという駅舎は、古き良き時代を感じさせる重厚な建物だった。この駅舎は今後「鉄道文化博物館」として改装され残されるようです。
○台中線～縦貫線北段：台中駅発 9:54～（自強号 108）～台北 11:33。
台北駅に近づき新竹、板橋といった駅名が出ると、今回の旅でご一緒した蜂谷さんと中島さんが、30数年前に台湾勤務された時を懐かしがっていた。きっと思い出が甦ってき

たことでしょう。
台北のホテルのチェックインが午後 3 時からということで荷物だけ預け、簡さんお奨めのお店「維格餅家」に台湾の定番お土産「鳳梨酥（ﾊﾟｲﾅｯﾌﾟﾙｹｰｷ）」を購入しに行く。
この店の鳳梨酥は餡が 100％パイナップルを使用している。4年前の旅行の時もお土産として友・知人に差し上げたらとても好評だったので、今回も12箱購入した。
購入した数を見て、何度も台湾を訪れている久保田さんは呆れ顔の様子でした。
お土産を購入後、昼食を取るのに入った店はホテル近くの小さな麺屋だが、出されたワンタン麺のなんとびっくりするほど美味しさ！値段も50元（200 円弱）と、とても安い！渡邊さんはお土産にすると言って予約をし、帰国する翌日に受け取るような話を老板としていた。
帰国日にホテルを出た後に受け取ると言う手があったのかと、お土産に求めずとても残念だった。
チェックイン後は夕日が美しいという「淡水」に向かう。台北市内を網羅する交通MRTに乗って移動。MRTは初めてだが単程票（片道切符）を各自で求めるのも体験ということで、自販機でプラスチック製のトークンを求め、改札でタッチし降車駅の改札で投入口に入れた。
このような体験はツアー旅行ではやらないので、台湾を少し知ったような気持ちになれる。
路線も色分けされ、駅構内もその色に添って移動するとその路線に乗車が出来、慣れると台北市内どこにでも行ける便利な交通手段である。
淡水は残念ながら曇り空で、期待した夕日は見ることが出来なかったが、淡水河の河口に設置されたテラス席を散策した。でもその残念さは、その夜の夕食会でいっぺんに解消してしまった。
その夕食会は、蜂谷さんと中島さんの台湾勤務の同僚の方々が10数名集まり、「永福楼」という台北でも老舗の江浙料理店で、我々の歓迎会を開いて頂いたのです。
出る料理を一つ一つ写真に撮りたかったが、招待された身としてそれも失礼になると思い断念しましたが、次々と運ばれて来る料理はどれもが美味しかったです。
それにしても30数年前の同僚をこのように歓迎する台湾の方々を見て、台湾の方は親日家だと言う以上に、蜂谷さんと中島さんの人望と今もって続く交誼を羨ましく思えた。
蜂屋さん・中島さん・南港輪胎の皆様方にありがとうございました。とお礼を申し上げます。

第五日目（10 月 23 日）
五日間の台湾旅行もあっと言う間に今日は帰国です。

10時のチェックアウトまで自由時間ということで、朝食もそこそこにホテルから10分もかからない雙漣朝市を見に出かける。この朝市は 4 年前にも一人で来た場所で懐かしい。この朝市は観光色の強い夜市と違って、台北市民の台所とも言える市で果物や野菜、肉や魚などの生鮮食品から、洋服、靴などまで様々な商品を売る店が出ている。
又、日本ではあまり見かけない珍しい果物も多く並んでいて、見て廻るだけでも愉しい。

1 時間程一人でそぞろ歩きをした後、簡さんと合流して果物の「釈迦頭」が買いたいので選んで頂いた。一粒一粒が大きいのが甘いらしい。1 個100元（400 円弱）。お土産としてトランクの中に潜ませて持ち帰った。帰国後四日ほど経ってから食べたがクリーミーで濃厚な甘さだった。
朝市を見た後、台湾最後の昼食は小龍包を食べることになり、連れて行かれたのは「金品茶楼」というお店である。店内はガラス張りキッチンの中で小龍包を作る料理人の方たちが見え、その手際の良さをみているだけでも美味しさが増す。
セイロで運ばれて来た熱々の小龍包はとても美味しく、その後に出てきた野菜餃子・えびシュウマイ・ぷりぷりのエビが入っている炒飯と台湾グルメに舌鼓を打った。とても満足でした！
私たちが帰国した 2 週間後に、私の知人が台湾に旅行に行くと言ったので「金品茶楼」を奨めたら、早速訪れ「良いお店を紹介して頂き、とても美味しく満足しました」と喜びの声を頂いた。
小龍包と餃子でお腹も一杯になり、ホテルに戻り荷物をまとめ松山空港までガイドの簡さんに見送りをされて帰路に着いた。

私が台湾を訪れるのは今回で 3 回目になるが、駆け足で反時計回りでの台湾一周した 1 回目、新幹線を使って台湾最南端の鵝鑾鼻の観光、平渓でのランタン揚げをした 2 回目、そして今回の鉄道を使っての時計回りの台湾一周の旅と、訪れる季節も、交通手段も異なってそれぞれ違った顔を見せた台湾の旅は、何度訪れても楽しい処でした。
最後に今回の旅の企画・提案をされた渡邊さん、手配から添乗員までの役までをやって頂いた久保田さん、そして今回も豊かな知識と経験で楽しい案内をして頂いたガイドの簡さんに、厚くお礼を申し上げて私の「台湾一周・鉄道の旅」の旅行記とします。
没有比和好朋友结伴旅游更高兴的事了。咱们下次再一起去旅游吧！

旅行記に寄せて　　星期二班　薄井則久

次の「遇见北海道」は、中国・蘇州在住の赵英さんに「你好」へ寄稿して頂いた北海道旅行記です

赵英さんは、2010 年の“中国語を学ぶ会”研修旅行「厦門・武夷山・福建土楼の旅」で、旅行最終日の金門島遊覧にて、私たち中国語を学ぶ会の仲間と知り合いになりました。彼女は 2017 年の沖縄旅行に次いで二度目の来日で、昨年 11 月、友人と四名で訪れた北海道旅行の思い出を、当会の会報「你好」に書いて頂きました。

中国語の学習を兼ねて、会員の皆さんに読んで頂ければ幸いです。

遇见北海道

苏州　　赵英

北海道一直是我想去的地方之一，不管是在电影的片段中还是在我脑海中的印象里，它都是一个美丽而令人向往的地方。而就在 2018 年的 11 月 25 日～11 月 28 日，我向着我的目的地前进了。那么，我就来说说我的这趟旅程，希望对想去的朋友们有个大概印象。

出发之前的各种准备我就不啰嗦了，我们一行四人。机票和酒店是在携程网预订的，wife 和签证都是在某宝办理的，方便又快捷。11 月的苏州还处于十几度的天气，我们的目的地登别和札幌也都徘徊于 2 度～10 度，不算冷，但是羽绒服是必备的。

在我们的行程中，本来计划要去星野玩雪，但是今年的北海道下雪比往年晚了一个月左右。星野的各大滑雪项目都暂停营业。因此，星野玩雪以及传说中的“森林餐厅”我们只能作罢。

DAY1:上海——登别

我们乘坐的春秋航空，下午顺利抵达札幌新千岁机场。提前预约了登别石水亭温泉酒店的机场班车接送服务，到付 500 日元/人，非常方便。 我们预定的是日式套房，酒店在半山腰上，山间泉水叮咚，空气中弥漫着地狱谷硫磺的味道。CHECK IN 之后就直奔地狱谷了，晚上的地狱谷有种不一样的风情，栈道两边已经亮起了“地狱谷鬼火”。幸好当时去了地狱谷，因为第二天降温的缘故，早上有冰霜，很多木栈道都无法行走。

我们赶在 7 点左右回到酒店享用晚餐，晚餐很精致。

这一天我还有一件重要的事情没有完成，那就是要找一个邮局，给我一个住在平塚市的朋友寄个快递。大部分中国有的东西日本也都有，所以我挑选了具有苏州特色的礼物，特地带到北海道邮寄。因为在日本国内快递邮费便宜啦~~~问了酒店前台，居然酒店内的小卖部就有邮寄服务，太贴心了。其实“寄快递”这件事情中国和日本都差不多，并不复杂，就算不懂日语也是完全不用担心。我拿出了准备好的英语版地址，好心的柜台小哥哥还帮我填写了快递单，这次寄快递的体验非常不错！

DAY2:登别——札幌

早上又去了一次地狱谷，去了汤池，白天跟晚上感觉完全不一样。我们去的早，还没有什么游客，我们走了一条没有游客的小路上山了。一路上，乌鸦横飞，我忽然想起了中国的一句古诗：枯藤老树昏鸦，小桥流水人家。真的很应景，因为处于休眠火山地带，一路上都没有绿植，山间冒出来的阵阵温泉热气，还夹杂着乌鸦的叫声。我们四个人走在无人的山间小路，与其说是来游玩，不如说是丛林探险来的更贴切。

上午 10 点半我们乘坐酒店的免费班车前往下一站：札幌。大巴车把我们送到札幌市中心的 JR 站附近。下车后步行 5 分钟就到达我们预定的酒店：札幌蒙特利酒店。酒店是欧式风格，地理位置优越，推荐！由于还没有到入住的时间，我们把行李寄存后就出门逛街买买买了！附近的商场有：大丸百货，BIC CAMERA,东急百货，今井丸井～基本所有要买的东西在这里都能找到。 中午吃了大众点评上人气较高的“拉面共和国”，本来以为是拉面店的店名，去了才知道所谓的“拉面共和国”就是很多家拉面店集合在一起的“大食堂”。我们随便选了一家人较多的店，尝试了当地特色拉面。总体感觉一般，味道也很普通。没有我在冲绳吃到的好吃。

大商场扫荡后，我们买了地铁一日券 830 日元，24 小时之内可以不限次数乘坐。我们去了白色恋人公园，北海道神社，大通公园，本来打算去北海道大学的，但是当地时间下午 4 点就已经天黑。我们就直接去了札幌电视塔，塔前装饰了很多灯光，夜晚的电视塔格外美丽，随后直接转战狸小路商业街。在这里我想起了杨千嬅的歌《再见二丁目》，真的很有感触！很多店铺都关门了，我们直接去了松本清药妆，每个人都收获满满，但是要把这么多东西拎回酒店是一件非常痛苦的差事。

这一天是最累的一天，要说有什么特别之处，就是半夜我们出去觅食了。深夜 11 点，很多饭店都关门了，我们一路寻找，忽然看见马路对面，天桥底下，有一间非常不起眼的居酒屋。有几个日本当地人三三两两的进去了，我们特别兴奋的想去一探究竟。里面的环境超级压抑，但是在这个深夜，居然高朋满座，异常热闹。我们入座后，点了几个招牌菜和梅子酒。印象最深的就是“明太玉子焼き”，真的太好吃了，我们点了两份都还不够。午夜12点，吃饱喝足回酒店 ，一个字“累”。

DAY3:札幌——小樽

起床后，去 JR 站购买火车票前往小樽。日本的 JR 购票很方便，和中国的稍微有所不同。日本买票是提前看好线路及下车地点，选择对应的金额就可以了。我们买的是自由席，不限车次，大概 20 分钟一班开往小樽。

检票入口前会有大屏幕提示乘车站台，根据指示到相应的站台即可。相当于在国内乘坐地铁的模式，非常便利，也不用担心错过班次需要改签之类的。
这就是传说中的沿海 JR,一路的风土人情，火车沿海行驶，一群群海鸥展翅高飞～～我们中途在“朝里”站下车了，那是一个无人站台，只有两三个游客在这里逗留。

没有下雪，也没有海边的雪地散步。一个站台就是一个景点，下车的时候开始下起了雨来，我们在海边呆了一会，拍了几张照片就走了。
继续 JR，两站路就到达南小樽站。我们提前下车了，沿着轨道的方向一路走过去，途径八音盒，北一硝子馆，旧手宫线的铁轨，小樽运河～买了六味亭的巧克力。
小樽其实是一个比较有特色的小镇，中午吃了生鱼片丼，当地的海鲜很新鲜。午饭后前往天狗山。我们在小樽站买了巴士和天狗山缆车套票 1700 日元/人。天狗山这个景点，一般的旅行团是不会来的，人很少。但是很惊艳，山上积雪很大，满足了我们玩雪的心情。山顶上的空气很新鲜，蓝天白云就在头顶，心情豁然开朗。其实，再怎么渺小的人，在大海，高山面前都会“宽广”起来，大自然就是我们内心的调和剂。
回程的时候正好碰上当地的学校放学，大巴车上忽然上来一大波学生。但是在车上居然没有人讲话！

就算有也是小心翼翼的，给人的感觉很压抑，缺少彼此之间内心的交流。这一天我们很休闲也很满足。玩到了想玩的，看到了想看的风景，吃到了想吃的美食～
回到札幌市内，又去逛了商场，感觉还有好多东西没有买～

DAY4：
在札幌的最后一天也是回国的一天，上午趁着时间还早又去逛了逛药妆店。到达机场后买了很多生巧，薯条三兄弟等等，原本的目的是要把身上的日元用光光，结果却是：一到买巧克力，就停不下来，总想着要带回国，给亲朋好友都带点礼物回去～最后不得不刷卡买单。

旅程虽然短暂，但是很充实～
期待日本的下一站：玩转本州岛～

朝里駅（あさりえき）は、北海道小樽市朝里にある函館本線の駅で、1995年の岩井俊二監督の『Love Letter』の撮影場所に使用された。又、2015年に中国でリリースされた岩井俊二プロデュースの映画『恋愛中の都市（原題「恋愛中的城市」）』中の台湾人監督による1話「Honeymoon（蜜月）」の撮影場所にもなった。これらの作品は中国・台湾・韓国で大人気を得、ロケ地巡りの観光客が多い場所。
（薄井記）

日本語演説会報告

中国語を学ぶ会　久保田　利昌

　昨年実施しました研修旅行（'18/10/19～10/23 台湾一周鉄道の旅）に於いて台中市の日本語研修サークルとの交流会の席で、"私自身・平塚市及び中国語を学ぶ会の紹介"を目的として下記の文章を中国語で作成しました。
しかし、当日は日本語を勉強されておられる方々に対する紹介ですので、ほぼ日本語でお話をしました。と言うことで今回のその原稿を"ニイハオ"誌上で紹介させて頂きます。あくまでも、台湾の方々への紹介と言うことで、お話し口調です事をご了解ください。

大家 好。 我 姓 久保田，是 中文学习会 的一个会员。 我自己 的 介绍 随后再说 一下儿。
今天，我们 能有 机会 参加 历史悠久的台中中央日本语国际演说会，我们 既 非常 感谢 ，又 觉得 跟 大家一起 交流 很 高兴 。
特别 是 对 郑副部长和蔡先生 两位 的 尽力 帮助 ， 我 非常 感谢。
（自己紹介）
那，再 自我 介绍 一下儿 。我 叫 久保田 利昌，现在 72 岁。
2009 年，从工作的公司 退休了。顺便说一句，那家公司是东洋纺，跟蔡先生是在同一家公司。 我 工作 的 时候，常常 出差去 台湾，那时，我得到 他的帮助太感谢了。
退休后的半年， 我只过着去打高尔夫球或者打网球的日子。
有一天，在平塚市民报上，我 一 看到 这个会 的 募集会员，马上就 决定 参加了。我 怎么决定了 参加？刚才说的 退休前的几年 我 常常 有 机会 出差 去 台湾和大陆。不过，很多台湾人 说的 日语 特别好，所以 我 只用了 日语和英语 就可以生话。那时 我 可以 理解 的 只有 一个词"谢谢"。
尽管 有 了 二十次， 三十次 机会 去了，可是 不能 理解 中文，这 真的 是 太遗憾 了。
开始 学习 中文 已经 过了 8 年 了，不过 没 有 一点儿 进步。我 深 痛感到了能力 不够。我的事 就 说到了。 那么 接下来 介绍 一下儿 "平塚市"

(平塚市の紹介)
我们 的 会 在 平塚市。 平塚市 在 哪儿？ 谁 知道 ？
知道 的 人 请 举 手!　　不 多 啊 / 很 多 人 知道 吧

虽然大家都知道， 日本 由 4 个大岛和很多小岛 构成。
平塚市 在 第一大岛“本州”里 的 中央南边 “神奈川县”里。日本 的 首都 是 什么？知道 吗？ 对 对，那 就 是　东京。从东京 坐 火车 到平塚 一个少时 和 从横滨到平塚 也就 30 分钟 左右。
台湾年轻人里 一个很有名的镰仓高中附近 的 道口，风景美丽 的 江之岛 和 箱根，那些名胜地 也都 很 近，开车 30 分钟。
每年 7 月，都举办 七夕节。那天 市中心 到处 都是 很美丽装饰 的 竹子。平塚的气候 很 温暖，运动 也 很盛行。有 一只甲级 足球队，那队 是 相南美海。还有海滨上 有 很多 沙滩排球场，经常 有 比赛。平塚 被称为 沙滩排球 的 圣地 。
城市 的 中央区里 在 几家有名的 生产公司。其中的 一家公司 横滨橡胶， 今天参加 的 两个会员 就在那家公司工作，而且 他们 也都 在 台湾 住过。
北边 是　丰富 的 农业地区。 种着 大米，草莓，梨子等等。
现在，平塚市 的 人口 是　25 万人左右。我 觉得 我们的城市 很合适 居住。所以，我们 都 很期待 你们 有机会 来平塚。

(中国語を学ぶ会の歴史)
最后 也是 最重要 的，我想 介绍 中文学习会 的 历史 和 话动情况。
这个会 从 1972 年 开始活动，已经 过了 45 年 以上 了。
不过，那时学习的会员 现在 不在籍了。但是，通过 学习中文 理解中国 和 中华文化区域 的 历史，文化 和 风俗习惯 的 理念　从来 没有变。
现在 的 老师，李 晶 明 老师 是 第 5 代 的。她 已经 当 了 20 年 左右 了。她是 东北长春 人，听说 在 大学 专攻 化学和 也在日本 的九州大学 留学了。她的普通话发音 非常 清楚， 指导 也 很 热心 。
现在 的 主要 的 话动内容 是；
＊ 按水平分班；入门 初级 初-中级 中-上级　一个月各上三次课
　　各各 有 一月 3 次
＊ 发行 会报 ；一年一次
＊包饺子的会；一年举办一次
＊ 研修旅行；
平时 除了 星期三的初级班，下午 1 点半开始以外，三个班 都是 晚上 7 点钟开始 。一节课 是 一个半小时。会费 是 一月三千日円，不

过 学员 哪个班都可以参加, 所以 一般 的 学员 参加 两个以上的班。
包饺子 的 会 开 一年一次 。在 李老师 和 她丈夫 的 指导下 学员 和 各位朋友 一起 亲手 包饺子。我们 度过了 愉快的 半天时光。
我们 去过 三次 中国内地, 每次 都 跟 当地 的 日语学习学生 交流。
2014 年的研修旅行是去台湾的。那时跟台中的日语学院的学生交流了。
这次 的 研修旅行的 题目 是 坐火车 环游台湾。我们 很期待 这次 火车的旅行 而且 通过 这样的 交流会, 我们 希望 会 越来越 加深 关系。

今天, 非常 谢谢。我 的 表现 和 发音 不 太 好, 如果 大家 能 理解 二成 到 三 成 我 就 觉得 特别 高兴 。
最后 在 东日本大地震 的时候, 得到 有 很多台湾朋友 的 帮助,
我们 都 日本人 都 不会 忘记。 非常 感谢。 谢谢。

中国語のパズル

水曜クラス 蜂屋和男

同じ数字には同じ文字を「」の中の日本語の意味にあたる中国語ができます

1

A

从(1) 到 (2)	「最初から最後まで」
(1) 班 (3)	「始発の電車. バス」
(2) 巴	「しっぽ」
卡 (3)	「トラック」

B

忙(1)要(2	「忙しくてたまらない」
(2)胡(3)	「袋小路」
(1)病	「病気になる」
(3)事	「同僚」

C

三(1)(2)意	「考えが定まらない」
(2)(3)子	「ごろつき」
开(1)	「愉快である」
(3)利	「流暢(りゅうちょう)である」

D

(1)济(2)事	「何の役にも立たない」
(1)(3)谓	「～とは言えない. どうでもよい」

关(2)　「～に関して」
厠(3)　「トイレ」

2

A

灰(1)丧(2)　「意気消沈する」

(3)(1)菜　「キャベツ」
生(2)　「腹を立てる」
(3)子　「答案」

B

(1)勿(2)烟　「禁煙」
(2)尖(3)　「掃除機」
(1)问　「お尋ねします」

磁(3)　「磁器」

C

(1)(1)虎虎　「いいかげん．まあまあだ」
拍(1)(2)　「おべっかを使う」
(2)股　「しり」

D

(1)纸(2)子　「明々白々な証拠」
(1)皮(3)　「白書」
(2)暗　「暗黒(である)」」
(3)法　「書道」

E

表(1)如(2)　「裏表がない」
(2)辈(3)　「一生涯」
公(1)　「キロメートル」
被 3)　「掛布団」

F

胸(1)(2)竹　「心中に成算が有る」

(2)(3)侯　「時には」
(2)本　「コスト」
(3)髦　「流行している」

3

A

(1)血(2)潮　「ふとひらめく」
站(3)(2)　「立ち上がる」
放(1)　「安心する」

(3)码　　「少なくとも」

B

(1)以置(2)　　「信じられない」
挂(3)(2)　　「書留郵便」
(1)得　　「得難い」
句(3)　　「文章の句点。マル」

C

(1)中(2)炭(tàn)　　「困ってるとに援助する」

(1)(3)豪　　「クリーム」
(2)礼　　「贈り物をする」
(3)样　　「模様」

D

(1)心应(2)　　「事がすらすらと運ぶ」
(3)不(1)　　「道理で」
高(2)　　「名人」
奇(3)　　「おかしい。奇妙だ」

E

大(1)身(2)　　「大いに才能を発揮する」
(3)(2)术　　「手術をする」
(1)得　　「イカに見～に見える」
(3)人　　「感動させる」

F

(1)带(2)()　　「狭い川や海で隔てられているだけの関係」
(2)电(3)　　「水力発電」
(1)袋　　「ポケット」
车(3))　　「駅」

4

A

三(1)(2)语　　「わずかな言葉」
(2)(3)事　　「全く別なこと」

谎(huǎng)(1)　　「うそ」

(3)信　　「返事をする. を出す」

B

(1)不足(2)　　「取るに足りない」
(1)(3)炉　　「電子レンジ」

(2)歉(qiàn)　　「お詫びする」

(3)兰　　「ポーランド」

C

(1)材(2)用　「役不足」
(2)五(3)　「金物類（建築用の」
(1)方　「気前が良い」
(3)黄　「黄金」

D

理(1)(2)壮(zhuàng)　「理が通っいて意気盛ん」

(2)(3)炎(yán)　「恐妻家」

简(1)　「まるで」
不(3)　「～であろうと」

E

手(1)寸(2)　「全く武器を持っていない」
(2)(3)碗　「食いっぱぐれのない職業」
(1)论　「～を問わず」
(3)店　「ホテル」

F

熟(shú)(1)生(2)　「習うより慣れろ」

(3)子(1)　「原子力」

恰(qià)(2)　「折よく」

(3)来　「もとは．なんと」

5

A

(1)马(2)花　「大雑把にものを見る」
(3)慢(1)　「気を付けてお帰りください」
(2)来　「見たところ～のようで」
(3)客　「おごる．客えお招待する」

B

旷(kuàng)(1)持(2)　「時間を無駄に費やして事を長引かせる」

(1 光)(3)　「蛍光灯」

(2)仰(yǎng)　「お名前はかねて承(うけたまわ)っております」

台(3)　「電気スタンド」

C

四(1)八(2)　「四方八方」
(1)(3)车　「マイクロバス」

(2)便　　「便利である」
钱(3)　　「財布」

D

(1) 言巧(2)　　「美辞麗句」

天(1)(2)　　「天井板」
(2)言　　「言葉」
老(3)　　「商店主. 社長」

E

寄(1)篱(2)　　「他人のやっかいになる」

小(1)(3)　　「絵本」
(2)课　　「授業が終わる」
念(3)　　「本を読む. 学校で学ぶ」

F

约(1)三(2)　　「簡単な取り決めを結ぶ」
没(3)(1)　　「しかたがない」
(2)程　　「規約」
(3)公　　「事務をとる」

答え

1 A1 头 2 尾 3 车 B1 得 2 死 3 同 C1 心 2 二 3 流 D1 无 2 于 3 所
2 A1 心 2 气 3 卷 B1 请 2 吸 3 器 C1 马 2 屁 D1 白 2 黑 3 书 E1 里 2 一 3 子 F1 有 2 成 3 时
3 A1 心 2 来 3 起 B1 难 2 信 3 号 C 1 雪 2 送 3 花 D1 得 2 手 3 怪 E1 显 2 手 3 动 F1 衣 2 水 3 站
4 A1 言 2 两 3 回 B1 微 2 足 3 波 C1 太 2 小 3 金 D1 直 2 气 3 管 E1 无 2 铁 3 饭 F1 能 2 巧 3 原
5 A1 走 2 看 3 请 B1 日 2 久 3 灯 C1 面 2 方 3 包 D1 花 2 语 3 饭 E1 人 2 下 3F1 法 2 章 3 办

鯉太郎を救え

火曜クラス　おのでら　のぼる

僕は鈴川に住む鯉太郎です。
鈴川は、丹沢のふもとから相模湾へ流れる小さな川です。
いつもは、川幅の半分しか水がありませんが、今朝は、きのう降った雨のため川幅一杯です。
土手の桜も、もうすぐ咲きだしそうな暖かい日です
僕は、朝ごはんを食べ終わったら、すぐに、お母さんに『遊んで来る』と言って家を出ました。

いつもは、水が無く、草が生え、小石がゴロゴロする所が、今日は浅瀬になっている。
こういう所は僕の冒険心をくすぐるのだ。

どのくらい遊んでいたのだろう、ふと空を見上げると、お日さまが頭の上にあります。
家に戻らなくては、家のある方に泳ぎ出したがお腹に小石に当たり進めません。
向きを変えても、すぐに行き止まりになる。
『しまった。水が引けて水溜りになったのだ。』

その頃、家では、鯉太郎が、帰って来ないと大騒ぎでした。
親戚の人や近所の人にも来てもらい川の上流、下流を手分けして探しますが見つかりません。
『もしかすると、水溜りから戻れないのではないのかな？』と親戚のおじさんが言いました。
お父さんは、何を思ったのか、いきなり、水面をたたいてジャンプしました。
2度、3度とジャンプし、『いたぞ、いたぞ、鯉太郎がいるぞ』と大声で叫びました。
5mくらい離れた水溜りに、背びれだけが水から出ていました。
お父さんは、背びれだけを見て、鯉太郎だと分かります。
『さあっ、どうやって救い出そうか。ぐずぐずしていると、水溜りは干上がってしまう。急がなくては』と、みんなが顔を寄せ合いました。
隣のおじさんが、『紐を飛ばして、鯉太郎に端をくわえさせ、みんなで引っ張るのはどうだろう』と言いました。
『やろう、やろう』と、すぐ決まり、石に絡んでいた紐と、ペットボトルを探してきました。
ペットボトルの中に、小石を入れ、紐を結びました。
近所で一番元気のいいお兄ちゃんが、飛ばすことになりました。
紐の端をお父さんたちがくわえ、紐の付いたペットボトルを川に浮かせました。
お兄ちゃんは、少し離れたところから、これまで見たことのない速さで泳ぎ、ペットボトルの下で横向きになり、尾びれで、ペットボトルを打上げました。
ペットボトルは、『ヒューン』という音をたて、鯉太郎のいる水溜りに飛んでいきました。
『さあっ、鯉太郎、紐をくわえて、引っ張るぞ』と言うお父さんの声が聞こえました。
鯉太郎は『いいよ』と返事をして、しっかりと紐をくわえました。
川の方では、みんなが、もう一方の紐の端をくわえ『よいしょ』と、引っ張りました。
その瞬間、鯉太郎は『いたたたぁ』と、紐を口から離してしまいました。
水溜りのふちの小石に、お腹を強くこすったのです。
お父さん達も『だめかぁ』と、この方法はあきらめました。

そうすると、近所で家を作るのが上手なおじさんが、『水溜りまで水路を作るのは、どうかな』と言い出しました。
時間がありません。すぐにとりかかりました。
言い出したおじさんが、水溜りに向かい、口を器用に使い『プップッ』と小石を左右に飛ばし、お腹を、くねくねさせ砂利を左右に掻き分けました。
しばらくすると、おじさんのお腹の下の方から赤い血のようなものが水に混じって流れま

した。
それを見た、鯉太郎のお母さんが、泣きながら『おじさん、おじさん、もういいです。ありがとう。ありがとう』と言い、止めました。
みんなから、『又、だめかぁ』というため息が漏れました。
一瞬、川の中は、静まりかえりました。

その時、この川で一番のお年寄りのおじいちゃんが、口を開きました。
『みんな、これは、賭けになるが、やもうえまい。もうすぐ夕方になる。そうすると、土手を散歩する人間が多く通る。その時に、みんなで、ジャンプをするんじゃ、ジャンプできないものは浅瀬で尾びれを振れ、人間に注目してもらうんじゃ、鯉太郎に気が付いてくれて助けてくれるかもしれない。ただ、鯉太郎が食べられるかもしれないが・・・』
みんなは、声には出さないが、わかっていた。そのままでは、鯉太郎のいる水溜りは干上がるのだ。
それからは、みんなで土手を見ていた。
赤ちゃんを連れたお母さんが通りかかる。
『さあみんな、ジャンプ、ジャンプ』と自治会長さんが号令をかけた。
みんなは、鯉太郎を救えるならと、思い切り飛んだ。お年寄りは、浅瀬で尾びれを振った。
お母さんが振り向いて見てくれた。
お母さんは赤ちゃんに、『すごいね、お魚が跳ねているよ。何かうれしいことでもあったんでしょうね』と言いながら通り過ぎた。

次は、2人連れのおばあちゃんが通りかかった。
『みんな、もう一度ジャンプ、ジャンプ』
おばあちゃん達は、話に夢中で気づいてくれません。
気のせいか鯉太郎の背中が更によく見えるようになっていた。
この作戦も、だめかなと、あきらめかけました。

その時、上流の新幹線の橋の方から、犬と散歩するおじいちゃんが歩いて来ます。
自治会長は『もう一度だけやってみよう。犬もおじいちゃんも景色を見ながらゆっくり歩いている。見てくれるかもしれない』
『さぁがんばって、ジャンプ、ジャンプ』
川は、水しぶきをたて、パッシャン、パッシャンと音をたてた。
おじいちゃんと犬が川の方を見た。
そのうち、犬が『ワン，ワン』と吠えた。
おじいちゃんは、犬が見ている方を見て『メイちゃん、あの水溜りのクネクネしているものは何だろうね？』
『あっ、鯉が一匹逃げ遅れたのだね』
『メイちゃん助けよう。でもすくう道具が無い。長靴も履いてない。一旦、家に戻って準備して来よう。メイちゃん散歩中止だよ。』

メイちゃんとおじいちゃんは、急いで家に戻り長靴を履き、バケツを持って川に戻って来ました。
『メイちゃんは、ここで待っていて』と言い、おじいちゃんは土手を下りた。
水溜りに、そろりそろりと近づき、鯉太郎の顔の前にバケツに入れ、鯉太郎を優しくバケツに入れ、本流に運んだ。
鯉太郎は、おじいちゃんがバケツから出すのを待てないというようにバケツから川へ転げ落ちた。
おじいちゃんは、何もなかったようにメイちゃんが待つ土手を登った。
登り終えるのを待っていたかのように、川から又、パシャン、パシャンという音がした。
おじいちゃんは『みんなが、ありがとうと言っているよ』と、メイちゃんの長い耳をなでた。
するとメイちゃんは、川に向かって『ワン，ワン』と吠え、自慢のふさふさとした尻尾をちぎれんばかりに振りました。

川では、鯉太郎の妹が、お父さんに『人間って、親切なんだね』と言いました。
少し、間をおいて、お父さんは『う、うん』と答えました。

おわり （H24 作成）

老師とのやり取り　　大野　祝宣

① 我的日常的事情，经验过的事情，想到了事情等等。
作为写作文章了。
㊙我基本上把日常的事情，想到了事情等等。
② 文章写日语，把那件翻译成中文了。
㊙文章先成日语，再把它翻译成中文了。
③ 从日文翻译成中文时，在学中文的会学了。
中文的用单词，例句和日中词典，虽然写作文章了。
㊙从日文翻译成中文时，用在学中文的会学上学的。
单词，例句和查日中词典，虽然写作文章了。
④ 但是中文还是很难，有错字，省略词，词序等的错误。
⑤ 被李老师用红字修改了这些语言。
㊙李老师把这些地方都用红字修改了
⑥ 还是稿纸被老师变成鲜红的字还给我了。
㊙稿纸被变成鲜红色还给我了。
⑦ 登大山。排成一行登大山。老师在前引导学生排成一行登大山。
⑧ 老师在前引导学生们，有一边看着变成黄色，红色的树叶一边走着排成一行登大山。
㊙老师在前引导学生们，一边看着变成黄色，红色的树叶一边排成一行登大山。
⑨ 天空被火烧云染成玫瑰色了。大概明天天气很好吧。
⑩ 登山路在脚底下

研修旅行アモイ・武夷山・泉州の旅

2010 年 3 月 26 日（金） の時の話

福建省の武夷岩茶の中でも伝説的な銘柄が大紅袍で、歴代の中国皇帝だけが飲む事のできる究極の銘茶であり、「中国茶乃王」とも称されています。

1980年代末ころからこの茶木から接木して育てた武夷岩茶は山の峰と岩壁の間の水はけの良い礫混じりの砂質土壌と清泉渓流に恵まれているところで成長するので特別の香り「岩骨花香」があるとされます。天心岩の岩肌に、いまも樹齢 400 年の原木が残っているウーロン茶の原木で、この地は平均の湿度は 80%以上！霧が多く、茶葉の生産に向いています。

大紅袍伝説で、病に倒れた科挙の受験生がここのお寺の和尚さんに大紅袍のお茶を飲ませてもらったら病が治り、無事試験に受かったお礼に大臣しか纏うことの出来ない赤いマントを茶木にかけた、と言われている。この寺が三教一体…三教って？儒教・仏教・道教か？

tiān xīn chán chá dà hóngpáo sù yuán

天 心 禅 茶 大 红 袍 溯 源

天心禅茶大红袍の根源をきわめる

dà hóng páo yóu lái
【大红袍由来】

míng hóng wǔ 18 nián (1385 nián)
明 洪 武 18 年 (1385 年)

jǔ zǐ dīng xiǎn zài gǎn kǎo lù shàng zhōng
举 子 丁 显 在 赶 考 路 上 中 暑 ,

hūn jué lù biān bèi tiān xīn sì sēng yǐ
昏 厥 路 边 , 被 天 心 寺 僧 以

chá rù yào zhì liáo de jiù hòu zhōng
茶 入 药 治 疗 , 得 救 后 中

zhuàng yuán
状 元 。

明の洪武 18 年科挙の試験に赴いている途中で暑気あたり、道端で気絶し、天心寺の僧がお茶の薬治療によって状元は命拾いをした。

wéi bào fó ēn zhuàng yuán yǐ hóng páo pī chá shù shǐ yǒu dà hóng páo zhī míng
为报佛恩, 状 元 以 红袍 披 茶树 始 有「大 红 袍」之 名 。

仏陀の恩に報いるために、状元は赤い着物でお茶の木をはおり、「大红袍」の名になりました。

míng chéng zǔ cì fēng
【明 成 祖赐 封】

míng yǒng lè míng chéng zǔ fēng tiān xīn sì wéi tiān xīn yǒng lè chán sì
明 永 乐17 年(1419 年), 明 成 祖 封 天 心 寺为 天 心 永 乐 禅 寺,

fēng tiān xīn chán chá wéi dà hóng páo suì wéi wàn chá zhī zūn yáng tiān xià
封 天 心 禅 茶 为「大 红 袍」。「大红袍」遂 为 万 茶 之 尊, 名 扬 天下。

明永乐 17 年、明の成祖が与えた天心寺の為の天心永乐禅寺、天心禅茶に「大红袍」を与える。「大红袍」は遂に全てのお茶の中の一番となり、天下に名をあげた。

wū lóng chá zhī zǔ gōng fu chá zhī yuán
【乌 龙 茶之祖, 工 夫 茶 之 源 】

míng mò qīng chū tiān xīn chá sēng yán zhì chū wū lóng chá zhì zuò gōng yì jīng jiǔ nài
明 末 清 初 (1646 年), 天 心 茶 僧 研 制 出乌 龙 茶制作 工 艺, 经久耐

pāo de wū lóng chá wéi gōng fu chá tí gòng yǒu mǐ zhī chuī bèi chēng wéi wū lóng chá
泡的乌 龙 茶为 工 夫茶提 供 有「米」之 炊 。「大红袍」被 称 为乌 龙 茶

zhī zǔ gōng fu chá zhī yuán bìng jiàn chéng wéi wǔ yí yán chá de dà
之 祖, 工 夫茶 之 源 , 并 渐 成 为武夷岩 茶的代名词。

明末清初、天心茶の僧は、ウーロン茶制作工芸、長時間沸かすウーロン茶は茶道のた

めに、今基本的に一番ピッタリしたものとなった。「大红袍」はウーロン茶の祖と呼ばれた。茶道の源、そしてだんだんと武夷岩茶の代名词となる。

中日谚语

大家在练习汉语会话或者写汉语短文的时候，能多用一些成语和谚语，会让汉语水平更高，也会让你的汉语更有“中国味”。大家快来一起学习一下儿吧！

1、雨だれ、石をうがつ 水滴石穿
2、上を下への大さわぎ　鸡犬不宁
3、蛙の子は蛙　有其父必有其子
4、云泥の差　天壤之别
5、後の祭り　马后炮
6、会うは别れの始め　天下没不散的宴席
7、上には上がある　天外有天
8、後足で砂をかける　过河拆桥
9、傍目八目　当事者迷，傍观者清
10、うわさをすれば影がさす　说曹操曹操到
11、一年の计は元旦にあり　一年之计在于春
12、井の中のかわず大海を知らず　井底之蛙
13、足下に火がつく　火烧眉毛
14、英雄色を好む　英雄难过美人关

手記:李　老師